

◇市民アンケート調査単純集計結果（概要版）

《市民アンケートの単純集計結果は参考資料 1 参照》

1. アンケート調査概要

（１）調査設計

- ①調査の対象者
○箕面市在住の16歳以上（平成29年1月1日現在）の男女 5,000人
- ②調査対象者の抽出方法
○平成29年1月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出
- ③調査方法および調査期間
○郵送配布・回収（お礼状兼督促1回あり）、無記名方式
○平成29年2月21日（火）～3月6日（月）

（２）調査票の回収結果

- 配布件数 5,000件
- 有効回答数（率） 2,858件（57.2%）

2. 回答者属性

- ◆年代は、「60歳代」が18.4%で最も多く、以下、「40歳代」が17.8%、「70歳代」が17.0%と続いている。
- ◆主な職業は、「会社員・公務員・団体職員」が30.0%で最も多く、以下、「専業主婦（夫）」が20.4%、「無職」が19.5%と続いている。

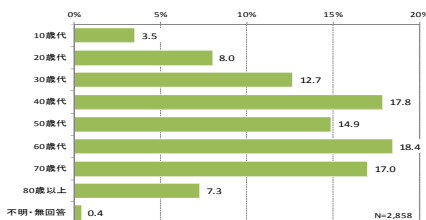


図1 回答者の年代

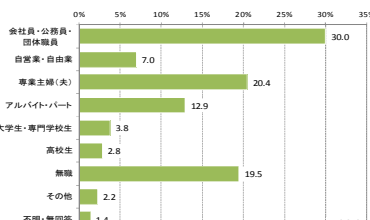


図2 回答者の主な職業

3. 普段の外出について

（１）通勤・通学

- ◆通勤・通学で利用する交通手段は、「阪急箕面線・宝塚線」が27.1%で最も多く、以下、「路線バス」が25.4%、「自家用車（自分で運転）」が23.8%、「自転車」が20.8%と続いている。

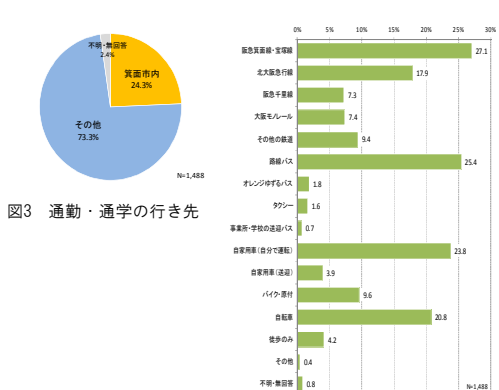


図4 通勤・通学で利用する交通手段

（２）買い物

- ◆日常の買い物時に利用する交通手段は、「自家用車（自分で運転）」が46.8%で最も多く、以下、「自転車」が28.6%、「路線バス」が15.7%と続いている。

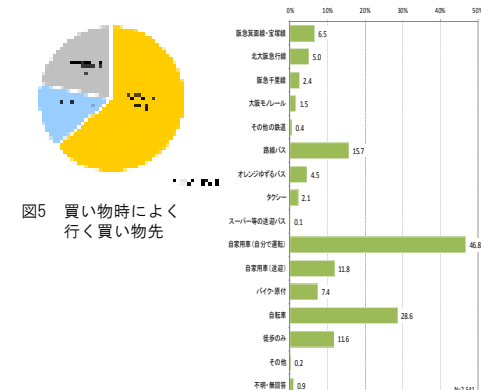


図5 買い物時によく行く買い物先

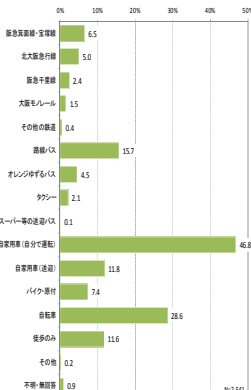


図6 買い物時に利用する交通手段

4. 北大阪急行線延伸後の移動について

- ◆延伸区間の利用意向は、「利用する」が44.0%で最も多く、「バス路線があれば利用する」（22.3%）と合わせると、66.3%が『利用意向あり』となっている。
- ◆利用すると回答した人が主に利用する新駅は、「（仮称）新箕面駅」が74.5%、「（仮称）箕面船場駅」が22.5%となっている。
- ◆利用すると回答した人の自宅から新駅までの交通手段は、「路線バス」が44.0%で最も多く、以下、「徒歩」が22.6%、「バイク・自転車（送迎含む）」が9.0%と続いている。

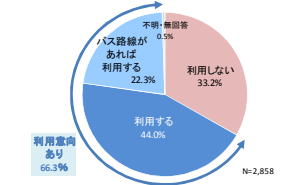


図7 延伸開業後の延伸区間の利用意向

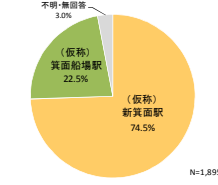


図8 主に利用する新駅

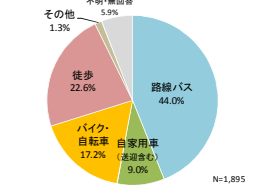


図9 自宅から新駅までの交通手段

5. 現在の路線バスの満足度について

- ◆満足度について、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）の割合をみると、『⑤乗りやすさ（段差・乗り心地など）』が33.7%で最も高く、以下、『①情報提供（マップ、時刻表、バスの現在地情報）』が33.4%、『②行き先』が32.2%と続いている。
- ◆『満足度』でみると、『⑤乗りやすさ（段差・乗り心地など）』、『①情報提供（マップ、時刻表、バスの現在地情報）』、『②行き先』の順で高くなっている。

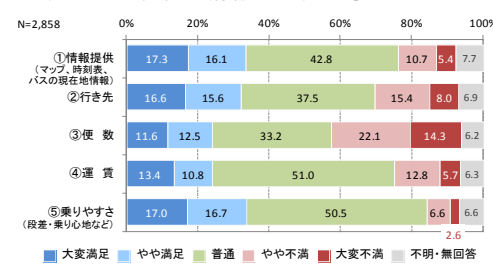


図10 路線バス（阪急バス）の満足度

満足	不満	満足度
33.4%	16.1%	3.32
32.2%	23.4%	3.19
24.1%	36.5%	2.84
24.2%	18.5%	3.14
33.7%	9.2%	3.42

※満足度：5.00～1.00

6. 路線バス（阪急バス）を再編することについて

- ◆最も必要な行き先は、「北大阪急行／千里中央駅」が38.8%で最も多く、以下、「北大阪急行／（仮称）新箕面駅」が38.2%、「阪急／箕面駅」が26.3%と続いている。
- ◆最低限必要なバスの本数は、朝（通勤通学時）が「10分に1本」、昼が「30分に1本」、夕方（帰宅時）が「15分に1本」が最も多い。

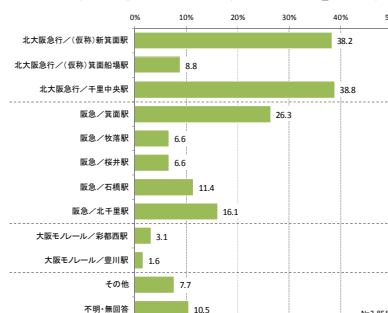


図11 最も必要な行き先

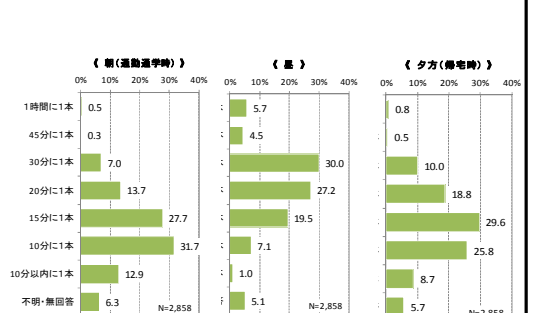


図12 最低限必要なバスの本数

1. アンケート調査概要

（1）調査設計

- ①調査の対象者
 - 阪急箕面駅・石橋駅・北千里駅、北大阪急行線千里中央駅からの路線バス利用者
- ②調査方法および調査期間
 - 手渡し配布・郵送回収、無記名方式
 - 平成29年2月21日（火）配布 ～3月6日（月）

（2）調査票の回収結果

- 配布件数 11,512件
- 有効回答数（率） 3,141件（27.3%）

2. 回答者属性

- ◆年代は、「50歳代」が19.5%で最も多く、以下、「60歳代」が19.2%、「40歳代」が18.2%と続いている。
- ◆居住地は、「箕面市」が69.1%で最も多く、以下、「吹田市」が9.7%、「豊中市」が7.0%と続いている。
- ◆主な職業は、「会社員・公務員・団体職員」が51.7%で最も多く、以下、「アルバイト・パート」が14.8%、「無職」が12.9%と続いている。

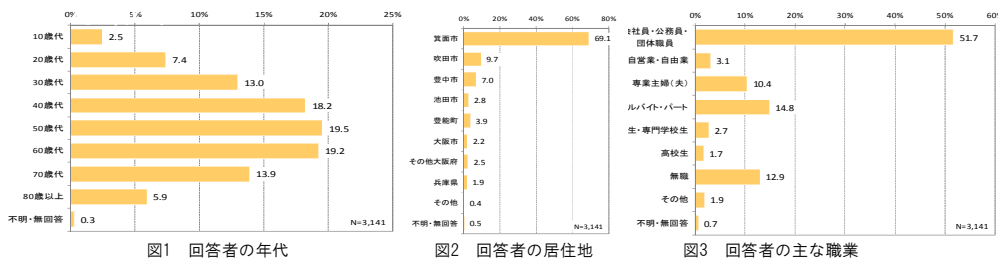


図1 回答者の年代

図2 回答者の居住地

図3 回答者の主な職業

3. 調査票を受け取ったときの移動について

- ◆バス停（乗車した）は、「千里中央（駅）」が63.4%で最も多く、次いで、「北千里（駅）」が19.4%となっている。
- ◆移動の目的は、「通勤」が62.4%で最も多く、次いで、「レジャー・趣味・ショッピング」が13.6%となっている。
- ◆外出先（目的地の場所）は、「大阪市」が31.6%で最も多く、以下、「箕面市」が21.0%、「吹田市」が16.0%と続いている。

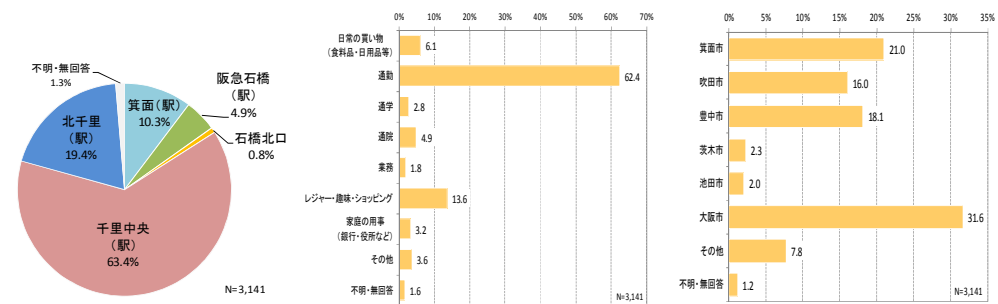


図4 調査票を受け取った（乗車した）バス停

図5 調査票を受け取った時の移動の目的

図6 調査票を受け取った時の目的地の場所

4. 普段の路線バスの利用などについて

- ◆利用頻度は、「ほぼ毎日（平日5日利用を含む）」が65.6%で最も多く、次いで、「週に数回」が21.7%となっている。
- ◆満足度は、「やや満足」が48.0%で最も多く、「大変満足」（13.5%）と合わせると、61.5%が『満足』となっている。

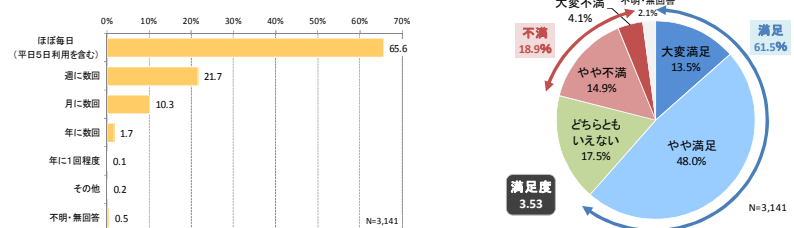


図7 普段の路線バスの利用頻度

図8 路線バスの満足度

5. 北大阪急行線延伸後の移動について

- ◆延伸区間の利用意向は、「利用する」が42.2%で最も多く、「バス路線があれば利用する」（26.4%）と合わせると、68.5%が『利用意向あり』となっている。
- ◆利用すると回答した人が主に利用する新駅は、「（仮称）新箕面駅」が78.0%、「（仮称）箕面船場駅」が19.0%となっている。
- ◆利用すると回答した人の自宅から新駅までの交通手段は、「路線バス」が65.4%で最も多く、次いで、「徒歩」が21.5%となっている。

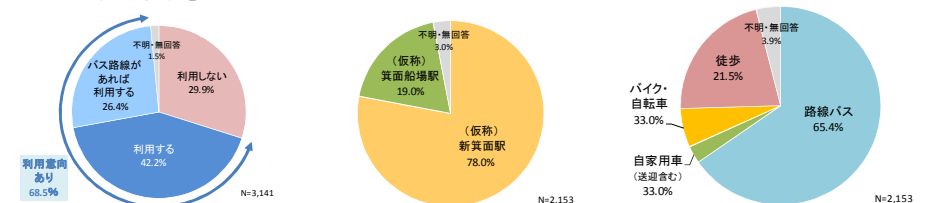


図9 延伸開業後の延伸区間の利用意向

図10 主に利用する新駅

図11 自宅から新駅までの交通手段

6. 路線バス（阪急バス）を再編することについて

- ◆最も必要な行き先は、「北大阪急行／千里中央駅」が51.1%で最も多く、以下、「北大阪急行／（仮称）新箕面駅」が36.0%、「阪急／北千里駅」が27.8%と続いている。
- ◆最低限必要なバスの本数は、朝（通勤通学時）が「10分に1本」、昼が「20分に1本」、夕方（帰宅時）が「15分に1本」が最も多い。

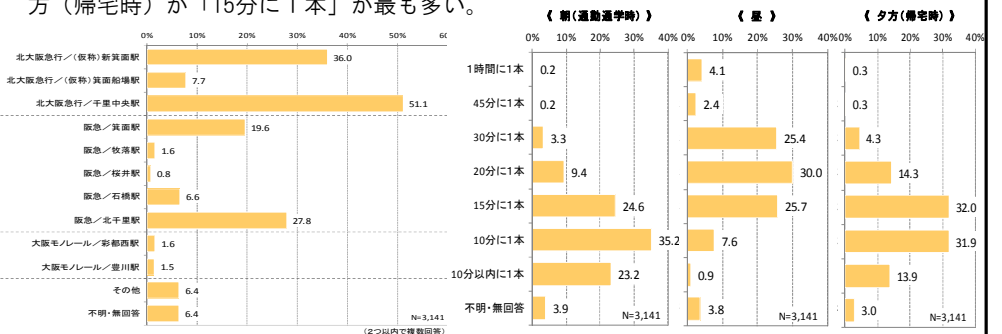


図12 最も必要な行き先

図13 最低限必要なバスの本数

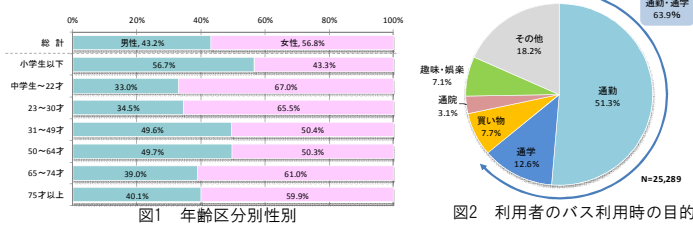
1. OD調査概要

（1）調査設計

- ①調査の実施主体・対象者
○阪急バス株式会社・阪急バス利用者
- ②調査方法および調査期間
○平成27年11月～12月の11日間

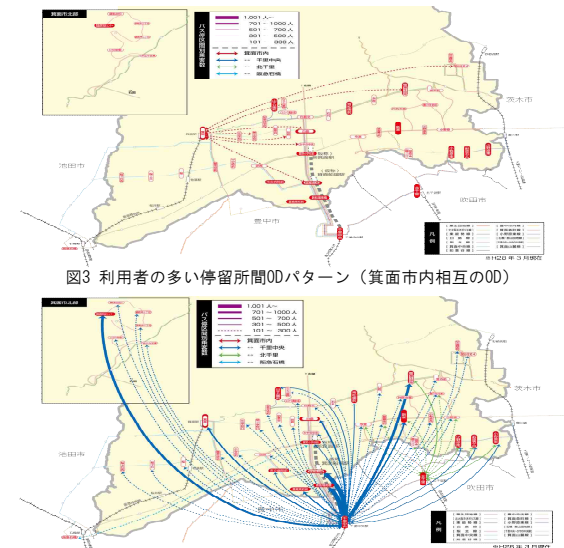
2. 回答者属性・移動目的

- ◆全体を通して女性が多く、中学生～22才、23～30才ではおよそ3分の2を占めている。
- ◆31～49才、50才～64才では、男性が約50%となっている。
- ◆通勤・通学が合わせて63.9%と、約3分の2を占める。次に、買い物、趣味・娯楽と続く。



3. 市内全域の停留所間のODについて

- ◆千里中央を発着とする利用が多く、対となるバス停は箕面市内の北・中・東部に広く分布している。また、乗客数の多いバス停と似た傾向を示している。
- ◆北千里を発着とする利用も次いで多く、対となるバス停には小野原南・栗生団地など東部が多い。



4. 路線別利用特性分析について

豊中市内線



白島線



如意谷線



箕面中央線



箕面森町線



北大阪ネオポリス線



4. 路線別利用特性分析について

阪北線



箕面山麓線



石橋・郡山団地線



小野原東線



栗生団地線（南回り今宮～小野原経由）



栗生団地線（南回り今宮～外院の里経由）



栗生団地線（南回り阪大口経由）



栗生団地線（北回り）

